

食品購入における食品ロス削減の方法と授業実践

澤田結衣* 青木香保里

1. はじめに

現在の日本の食料自給率は 38%で食品の多くを海外からの輸入に頼っており、食品ロスの多さが大きな問題となっている。ごみを大量に燃やすことによる費用の増加や環境負荷だけではなく、発展途上国での貧困による飢餓等、環境、経済、社会といった様々な観点から問題視されている。

日本における食品ロスのうち、家庭から発生している食品ロスの量は約 291 万トンであり、全体の約半数を占めている¹。この状況を改善するためには、一人ひとりの取り組みが必要不可欠になる。食品ロスを重要な問題として捉え、食品ロス削減に向けて取り組めるようにするためには、学校現場における家庭科教育が有効と考えた。家庭科で食品ロスについて学ぶことで、将来的に多くの方が食品ロスに関する知識を得ることになる。家庭での実践を見通した授業を行うことによって、家庭での食品ロス削減行動が増えることが期待できる。

家庭の食品ロスの発生要因となる消費者の行動には様々なものがあるが、その中でも食品購入が最も重要であると考えた。食品購入は家庭で食品を扱うに当たって最初にとる行動であり、家庭の食品ロス削減について考える際の入り口になると考えた。

そこで、食品ロス発生につながる行動の改善方法について深く追究し、子どもたちが実際に家庭で実践できるような授業について考える。実際の家庭生活での場面を取り上げて考えるようにすることで子どもたちが食品ロスを身近に感じることができ、興味をもつことができると考えた。そして、自立して生活をするようになってからも、継続して食品ロス削減に向けた食品購入ができるような工夫について考えていく。

2. 日本の食品ロスの現状

日本の食品ロスの量は年間 643 万トンであり、これは世界中で飢餓に苦しむ人々への世界の食糧援助量（年間約 380 万トン）の 1.7 倍に相当する。また、食品ロス全体のうち、事業系食品ロスは約 352 万トン、家庭系食品ロスは約 291 万トンとなっている。食品ロスの約半分は家庭から発生しているのである。家庭系食品ロスを国民 1 人当たり換算すると、毎日お茶碗 1 杯分のご飯を捨てていることになる²。食品ロスの量をお金に換算すると、1 世帯（4 人）当たり年間約 6 万円、1 か月あたり約 5000 円にもなるという³。私たちは気が付かないうちに、ごみとして膨大な金額を捨ててしまっているのである。



図 1 ごみ展開調査（2018 年）

食品ロス問題は、ここ数年で話題になっている問題

*愛知教育大学 教育学部 中等教育教員養成課程 家庭専攻 4 年

ではない。京都市では京都大学の協力のもと、1980年から家庭ごみの実態調査を行い、食品ロス削減に向けた分析を行っている。2016年のごみ展開調査では、約90世帯3日分で図1のような非常に多くの量の手つかず食品が確認された。中には、期限が切れていないにも関わらず捨てられている食品もある⁴。私たちはこの現状を受け止め、改善をしていかなければならない。

3. 家庭生活と食品ロス

3.1 家庭における食品ロスの実態

家庭で発生する食品ロスの主な原因には、過剰除去、食べ残し、直接廃棄がある⁵。平成28年度『消費生活に関する意識調査 結果報告書』によると、家庭での食品ロスの原因として生活の中で思い当たるものについて、「思い当たるものがない(食品ロスを発生させていない)」が36.8%、「直接廃棄」が26.7%、「食べ残し」が23.7%、「過剰除去」が12.8%となっている(図2)。

次に、廃棄の原因などについて詳しくみていく。直接廃棄の理由として、「食品の賞味期限・消費期限が過ぎたため」が23.9%、「すぐに食べるつもりで購入したが忘れてしまったため」が18.5%、「安売りなどの際に多めに買ってしまったため」が17.8%となっている(図3)。この結果から、「賞味期限の正しい意味を知らない」「家にどの食品がどのくらいあるのかを把握していない」「安いからという理由で必要以上に買ってしまう」人が多くいると考えられる。賞味期限・消費期限について知っている人は多いが、間違った認識をしている人は少なくない。また、詳しくは第2節で述べるが、買い物に行く際に冷蔵庫や食品庫の中身を確認しない人が多い。これらが原因で、直接廃棄の割合が上がってしまったのではないかと考えられる。

食べ残しの理由として、「普段より作り過ぎたため」が33.0%、「普段通りに作ったが食べる人がいなかったため」が23.1%、「体調不良などで食事の量が少ない人がいたため」が21.3%となっている(図4)。食べる人数を考えずレシピに記載されている分量通りに作ってしまったり、急遽外食の予定が入ってしまったりして、必要以上に料理が余ってしまうことが考えられる。

過剰除去をしがちな食品については、「野菜類」が80.8%、「魚介類」が9.6%、「肉類」が5.5%、「果実類」が4.2%となっている(図5)。野菜類が特別多くなっている原因として、「皮を厚く剥き過ぎてしまう」「種や傷んだ部分を除く際に食べられる部分まで取り除いてしまう」「使い切れず腐らせてしまいやすい」などが考えられる。キャベツや白菜など、使い切れるように半分や4分の1カットで売られている野菜もあるが、ほとんどの場合丸ごと1個購入した方が安い。そのため、安さを求める人々は使い切れるかどうかに関わらず丸ごと1個を買い、腐らせてしまうことがあるのだと考える。

最後に、思い当たるものがない(食品ロスを発生させていない)について、食品ロスは飲食店などの家庭以外で主に発生していると思っていたり、何が食品ロスに当たるのかが分かっていなかったりする可能性があると考えられる。食品を捨てるという行為が、日本だけでなく世界中に大きな影響をもたらしているという自覚がなければ、食品ロス削減に向けて行動していくことは

できない。まずは、食品ロスとは何か、どこから発生しているのかなど、基本的な知識を身に付けることが必要といえる。その上で、食品ロス問題を自分事として捉え、毎日の生活の中に継続して取り入れることができるような対策を行う必要があると考える。

家庭系食品ロスの様々な原因において、直接廃棄によって生み出されるロスが最も削減できると考える。先述したように、直接廃棄には食品購入が関わっていることが多い。食品購入において特別な技術は必要なく、比較的簡単に改善に向けた行動が機体できる。過剰除去を減らすためには、皮を薄く剥くなどの調理技術が必要になってくるが、買い物の前に冷蔵庫の中を確認する程度であれば誰にでも簡単にできる。そして、食品購入は家庭で食品を取り扱うに当たって最初にとる行動であり、家庭における食品ロス削減について考える際の入り口になると考えた。

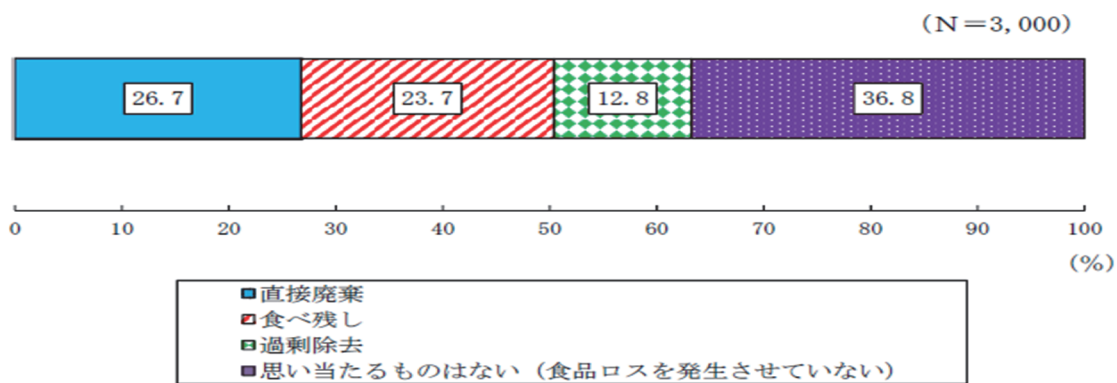


図2 家庭での食品ロスの原因として自らの生活の中で思い当たるもの

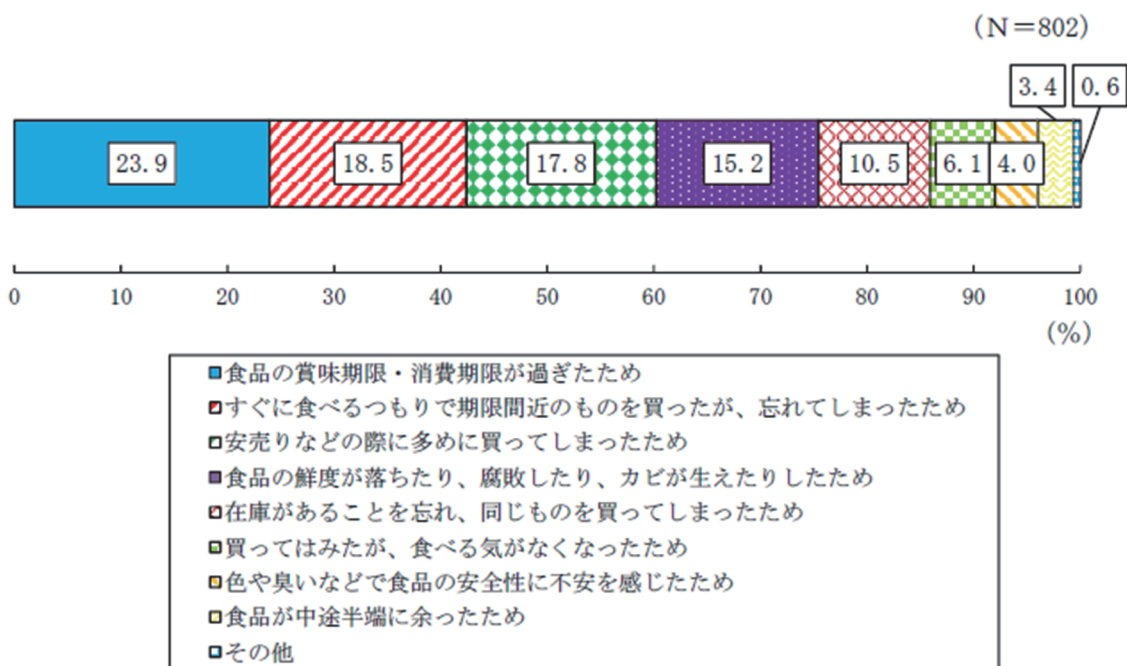


図3 直接廃棄の理由

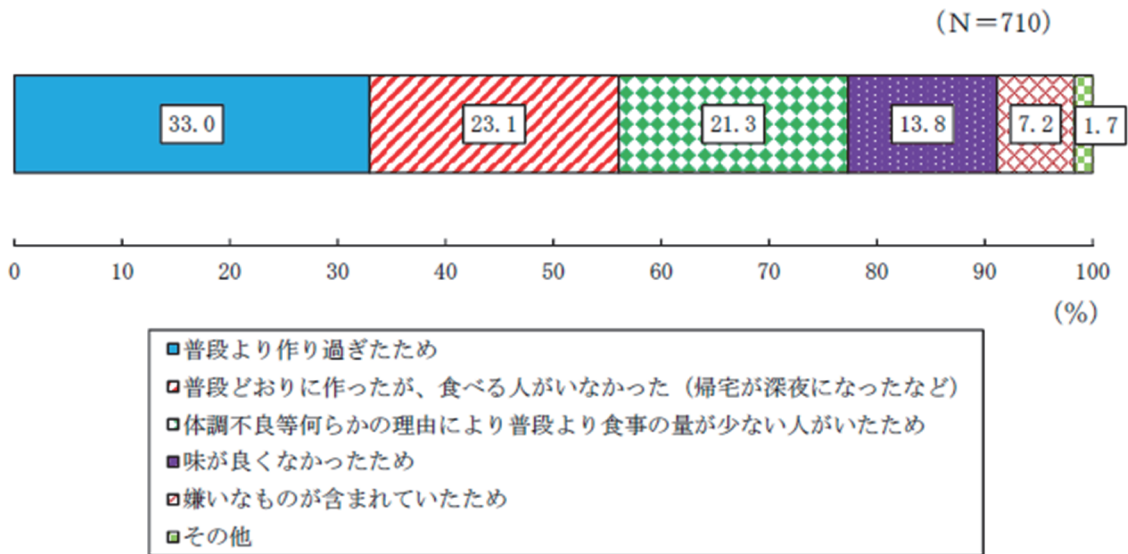


図4 食べ残しの理由

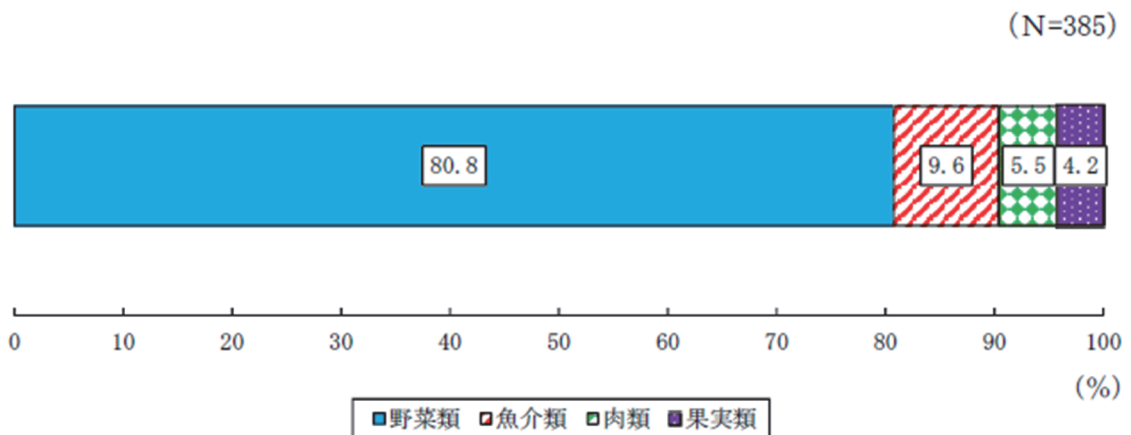


図5 過剰除去しがちな食材

3.2 家庭における食品購入の実態

平成22年『食品廃棄削減に向けた消費者意識調査結果報告書』において、買い物に行く前に冷蔵庫の中を確認するかどうかについて、「確認する」人は66.0%、「確認しない」人は24.1%であった(図6)。また、買い物に行く前に冷蔵庫以外で保存している食品を確認するかどうかについて、「確認する」人は47.8%、「確認しない」人は40.1%であった(図7)。次に、買い物に行く前に期限表示を確認するかどうかについて、冷蔵庫を「確認する」人は40.2%、「確認しない」人は51.1%(図8)、冷蔵庫以外を「確認する」人は30.8%、「確認しない」人は62.9%であった(図9)。以上の結果から、他の食品庫よりも冷蔵庫を、期限表示よりも何があるかをよく確認する傾向があることが分かる。しかし、買い物に行く前に何がどのくらいあるのかを確認する人は半数程度にとどまっている。事前に食品の確認をしなければ、購入しようとしている食品が家に

あるか思い出せない。購入しなかったためにその食品を使えなくなることを恐れて、結果余分に購入してしまうことが多いと考える。このように、家に何があるのかを把握せずに食品を購入してしまうと、使い切れずに廃棄してしまう可能性が高くなる。このような行動が、直接廃棄を増やす原因の1つになっていると考えられる。

食品購入段階において食品ロスを削減するためには、「自分は消費者だ」という認識をもつことが大切だと考える。消費行動がどのような影響を及ぼしているのかを理解し、自分たちの生活ではどうかを考え、どのような対策が必要なのか考える。その段階までできて初めて、買い物の前に冷蔵庫や食品庫の中に何があるか確認する、という対策が有効になってくると考える。食品ロスは世界的な問題であり、概要のみではその深刻さを実感することは難しい。なぜ食品ロスを削減しなければならないのか、削減することによって日常生活にどのような影響があるのか、家庭で簡単にできる対策は何かなど、子どもたちが具体的に考えることのできる、日常生活の場面を必ず取り上げるようにすることが大切だと考える。食品購入段階での食品ロスについて考える際には、「自分の消費行動の認識→与える影響→日常の食品購入の関わり→できる対策」という段階を踏むことによって、自分事として考えられるようになると考える。

必ず確認する	10.9%
だいたい確認する	55.1%
あまり確認しない	15.8%
ほとんど確認しない	8.3%
確認しなくても把握している	9.9%

図6 買い物に行く前に冷蔵庫の中に何があるか確認しますか？

必ず確認する	7.0%
だいたい確認する	40.8%
あまり確認しない	25.7%
ほとんど確認しない	14.4%
確認しなくても把握している	12.2%

図7 買い物に行く前に冷蔵庫以外で保存している食品に何があるか確認しますか？

必ず確認する	7.1%
だいたい確認する	33.2%
あまり確認しない	27.9%
ほとんど確認しない	23.2%
確認しなくても把握している	8.6%

図8 買い物に行く前に冷蔵庫の中にある食品の期限表示を確認しますか？

必ず確認する	5.3%
だいたい確認する	25.5%
あまり確認しない	33.3%
ほとんど確認しない	29.6%
確認しなくても把握している	6.3%

図9 買い物に行く前に冷蔵庫以外で保存している食品の期限表示を確認しますか？

4. 家庭科教育と食品ロス

4.1 教科書における食品ロスとの関わり

日本で扱われている中学校家庭科の教科書には、東京書籍、開隆堂、教育図書の3社がある。このうち、食品ロス問題についての記述があるのは開隆堂のみであり、他の2社については食品ロスと関連する内容の記述があった。東京書籍と開隆堂については、食生活の分野で食品ロス問題の現状や対策について書かれているものの、具体的な方法や実践につながるような手立てではなく、教員が補足で説明をしなければ自分事として考えにくい内容になっている。しかし、エコクッキングや食料生産、食料自給率などの関連する内容がいくつか記載されており、食品ロスのみならずエネルギーや資源の無駄遣いを減らす取り組みについても取り上げ、考えさせることができる。教育図書については、食生活の導入部分で買い物の際の食品選択について考えさせる問題がある。この1つの問題から、東京書籍や開隆堂のように、食品ロス、食品の輸送、地産地消など様々なことを考えることができる。以上のことから、食品ロス問題のみを授業で扱うのではなく、他の様々な問題と関連させる方法が扱いやすいと考えられる。

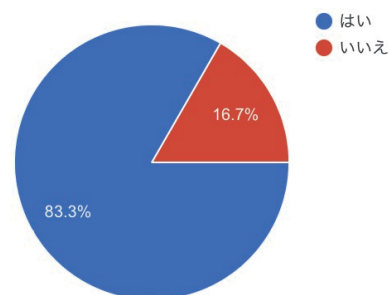
4.2 アンケート調査

実際に中学校の家庭科ではどのような食品ロスに関する授業が行われているのか、また、食品

ロスに対して教員はどのように思っているのかなどの生の声を知るため、中学校家庭科教員に対してアンケート調査を行った。知り合いである中学校家庭科の先生方にメールやSNSを通じて協力をしていただき、6名から回答をいただいた。各項目の結果については、以下の通りである。アンケートの調査票については、本項の最後に記載した（資料1）。

＜①中学校家庭科の授業において、食品ロス（関連する内容も含む）を取り扱ったことがありますか。＞

6名中5名がはいと答えており、多くの先生方が食品ロスについて取り扱っていることが分かる。

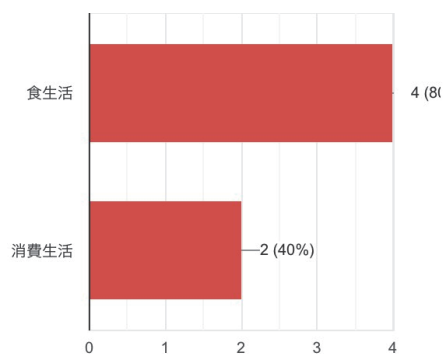


【扱った授業について】

①で、はいと答えた5名に対して調査を行った。

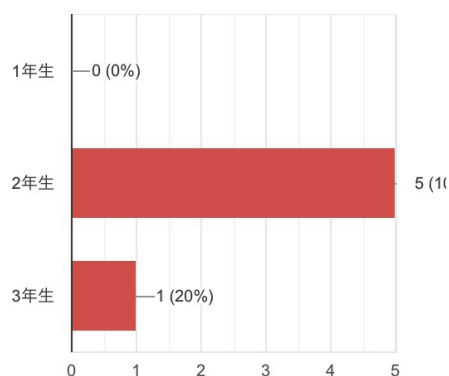
＜②どの単元で食品ロスを扱いましたか。（その他の場合は、具体的にどの単元かをご記入ください。）＞

5名中3名が食生活、1名が消費生活、1名が食生活と消費生活の両方で扱ったと答えている。第1節での教科書の分析を見ると、食生活の分野で食品ロスの記述がされている場合が多い。そのため、食生活の分野で食品ロスについて取り扱った先生方が多いと考える。



＜③何年生の授業で扱いましたか。＞

5名中4名が2年生、1名が2,3年生の両方と答えている。両方と答えた1名は、②の項目で食生活と消費生活の両方で扱ったと答えた方である。食品ロス問題は自分の家庭だけでなく、地域社会や世界中につながる問題である。1年生で食生活や消費生活などの基礎的な知識を身に付けさせ、2年生以降で基礎的な学習を終えた後の課題として取り扱う、という段階を踏んでいるのではないかと考えた。



<④どのような内容の授業を行いましたか。>

内容については右図の通りである。「ゴミを減らす」や「無駄なく」という言葉があるように、持続可能な食生活と関連して取り扱っていることが多いことが分かる。また、消費生活の分野では、消費行動と社会との関わりについて触れている。このことから、食生活でも消費生活でも、社会問題と関連させて取り扱っていることが分かる。

<⑤食品ロスを家庭科の授業で扱うことは難しいと思いますか。>

5名中2名がいいえ、3名がどちらともいえないと答えている。

<⑥ ⑤で選んだ理由を教えてください。>

上から3,4つ目が、⑤の質問でいいえと答えた方の回答である。食生活の分野で食品ロスを扱う場合、回答にもあるように、イメージが付きやすいため比較的扱いやすいと考える。しかし、時間数は限られているため食品ロスについて多くの時間を使うことはできず、詳しく取り扱うことは難しいという現状が分かる。また、食品ロスを取り扱った授業を行っても、スクールランチを残してしまう生徒がいるという現状を知ることができた。食品ロスをなくすことの取り組みが大切だと知っても、嫌いな食べ物がある、量が多いなどの理由が優先されてしまうのだと考える。

<⑦食品ロスを家庭科の授業で扱うことについて、ご意見等がありましたらお願いします。>

4名から回答をいただいた。食品ロスを扱った授業を模索しながら行っている方がいることが分かる。教科書の記述が少ないため、補足資料などが必要になってくるからであろう。食品ロスは食生活の分野で扱われることが多いという結果になったが、自分の消費行動や食品ロス以外の社会問題と関連させることで、食品ロスを通じて様々な物事について考えることができると気付くことができた。

[扱わなかった理由について]

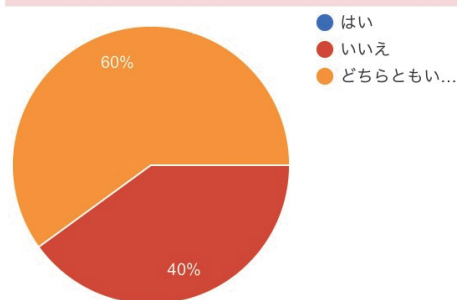
教科書に沿って

食に関する消費行動が社会にどのような影響を与えるか

教科書の持続可能な食生活のところ、食品ロスの原因や改善策を考えました。

食生活の導入 食を取り巻く問題点 ゴミを減らす

食品を適した場所に保存したり、賞味期限や消費期限を意識したりして、食品を無駄なく使用して食品ロスを減らした生活を心掛けたい。



大切なことと思うが、自分自身が不勉強だから

扱うべきだが、たくさんの授業時間を割くことが難しい

身近な問題だと思うから。

食生活の内容は、生徒にとって毎日のことなので、イメージが付きやすく、実生活に結びつきやすい

食品を選択する上で食品ロスのないような生活を心掛けようといった授業ではできるが、実際、昼食時になり、生徒たちの周りにはスクールランチを食べきれず残している現状がある。

資料、授業展開の紹介があれば知りたい

食品ロスの問題だけを個別で扱うのではなく、消費行動が社会に与える一例として扱うのがよいと思います。

生徒が主体的に学べるようなおもしろい実践があったら、教えてください。

私たちの生活は、食品だけでなく、モノにあふれている。いまあるものを大切にすることを考えていけるような授業をしていけたらと改めて感じた。

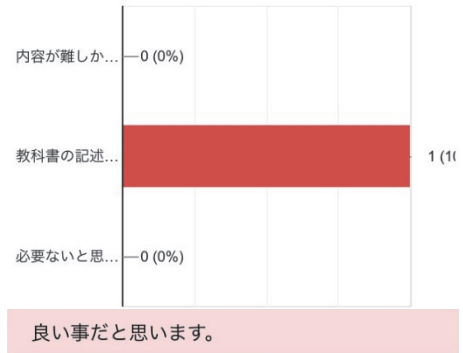
①で、いいえと答えた1名に調査を行った。

<②食品ロスを授業で扱わなかった理由を教えてください。>

教科書の記述の少なさから、取り扱わなかったと答えている。先述したように、食品ロスについて詳しく取り上げようとする、自分で資料を探す必要がある。限られた時間数の中で行うことは難しいため、記述の少ない内容を扱わないとしたのではないかと考える。

<③食品ロスを家庭科の授業で扱うことについて、ご意見等がありましたらお願いします。>

食品ロスについての授業を取り扱わなかった方でも、授業を行うことに対してはよいことだと考えていることが分かる。このことから、食品ロス問題を扱うことの大切さを分かっている、授業で扱うことができない現状があるのではないかと考えた。食品ロスについて、わかりやすい資料や参考にできるような授業実践があれば、限られた時間でも食品ロスについて扱いやすくなるのではないかと考える。



中学校家庭科教育における食品ロス関連の授業について

愛知教育大学教育学部 中等教育教員養成課程 家庭専攻4年の澤田結衣と申します。
このアンケートは、卒業研究で食品ロスを扱った授業についての調査を行うにあたって作成したものです。
今回ご回答頂きました内容については卒業研究のみで利用し、それ以外の目的で利用することは一切ございませんので安心ください。

*必須

①中学校家庭科の授業において、食品ロス(関連する内容も含む)を取り扱ったことがありますか。*

- はい
- いいえ

扱った授業について

②どの単元で食品ロスを扱いましたか。(その他の場合は、具体的にどの単元かをご記入ください。)*

- 食生活
- 消費生活
- その他:

③何年生の授業で扱いましたか。*

- 1年生
- 2年生
- 3年生

④どのような内容の授業を行いましたか。*

回答を入力

⑤食品ロスを家庭科の授業で扱うことは難しいと思いますか。*

- はい
- いいえ
- どちらともいえない

扱わなかった理由について

②食品ロスを授業で扱わなかった理由を教えてください。*

- 内容が難しかったから
- 教科書の記述が少なかったから
- 必要ないと思ったから
- その他:

③食品ロスを家庭科の授業で扱うことについて、ご意見等がありましたらお願いします。

回答を入力

資料1 中学校家庭科教員に対して行ったアンケート

(①で「はい」→「厚かった授業」、「いいえ」→「扱わなかった理由」)

5. 食品ロスに関する授業を効果的に行うために

食品ロス問題全体について授業で取り扱うに当たって、基礎的な学習を積み上げた後の課題として取り上げる方法がよいと考えた。1年生の初めの段階では、小学校での家庭科における、自己と家庭という空間軸、現在及びこれまでの生活という時間軸を中心として考えてきたため⁶、社会やこれからの生活のことについて考える経験をあまりしていないといえる。また、アンケート結果から、食品ロスを減らそうという授業を行ってもなかなか自分の生活に生かすことができていない現状があることが分かった。そのため、社会問題の解決を見通した授業を行うよりも、自分の生活、家庭生活、社会という段階を踏まえて1つずつできるようにすることが大切だと考えた。

食品購入における食品ロスについては、食生活の分野ではなく消費生活の分野で扱うことが効果的であると考えた。食品購入は、商品購入という行動の一部であり、買い物をする際の基本的な知識や注意点などは消費生活の分野で扱われる。また、食品ロス問題は消費者としての権利と責任、持続可能な社会を目指す生活といった内容との関連が強い。食品購入という自分の消費行動が、家庭や社会にどのような影響を与えているのかを考える際に、食品ロスについて触れるという方法が扱いやすいと考えた。また現状では、買い物に行く前に冷蔵庫や食品庫の中身や、既にある食品の期限を確認する人は半数程度にとどまっている。食品を確認する、という行動に特別な技術は必要なく、意識すれば誰でもできることである。この行動をすることの必要性を理解させ、買い物の前に食品を確認するという習慣ができるようにすれば、直接廃棄などの食品購入によって発生する食品ロスは削減することができる。さらに、食品購入において発生する、その他のロス（時間のロス、金銭のロス、エネルギーのロス、資源のロス）などとも関連付けることで様々なロスの削減についても考えるきっかけが生まれ、よりよい消費者の行動とは何か、どのような行動をしていくとよいのか、など自分の生活を見つめ直すことができると考える。

以上を踏まえ、中学校2年生の学習指導案を検討し、作成した。よりよい消費行動や持続可能な消費生活について考える、消費生活の分野のまとめとして取り扱うことを想定している。買い物のシミュレーションを通して、食品購入時のよりよい行動について考えることができ、今後の自分の行動について考え直すきっかけとなるであろう。

第2学年 家庭科学習指導案

I 題材名 食品のよりよい選択について考えよう

II 本時の指導

1 目標

- 食品購入をする際に、どのような点に気をつけるとよいかを理解できる。〈知識・技能〉
- 場面設定に応じて、どのような食品を選択するとよいか考え、持続可能な消費行動につながるよう工夫することができる。 〈思考・判断・表現〉
- 食品のよりよい選択について学習したことを生かして、家庭での実践を考えることができる。 〈主体的に学習に取り組む態度〉

2 準備

教員：ワークシート、フラッシュカード、

生徒：筆記用具

3 展開

時間	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
5分	<p>1 本時のめあてを知る。</p> <p>めあて _____</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px;">食品のよりよい選択について考えよう</p>	<p>○ 普段食品を買う時に、どのようなことに気をつけているか振り返らせる。</p>
38分	<p>2 場面に応じた適切な消費行動について考える。</p> <p style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">場面設定 夕飯に肉じゃがを作るため、足りない材料を買ってきてほしいと頼まれた。</p> <p>(1) 買い物に行く前に、どのようなことに気をつけるとよいか考える。</p> <p style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">ポイント ①エコバッグ ②家にある食品の確認</p>	<p>○ 場面設定を説明し、肉じゃがの材料を書いたフラッシュカードを提示する。</p> <p>○ 食品や資源を無駄にしないようにするため、家を出る前に確認すべきことは何か考えさせる。</p>

	<p>(2) スーパーで食品を選ぶ際に、どのようなことに気をつけるとよいか考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ エコバッグを使うことによる環境への配慮、家にある食品を確認することによる無駄な買い物の防止について説明をする。 ○ にんじん、薄切り肉それぞれの選択肢を提示し、どれを選ぶとよいか考えさせる。
	<p>ポイント</p> <p>③量 ④産地 ⑤期限</p> <p>3 様々なロスを減らす買い物をするためには、どのようなことに気をつけるとよいか考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 始めは個人で考えてワークシートに書かせる。その後周りの生徒と話し合わせることで、様々な考えを知ることができるようにする。 ○ 自分や他の生徒が食品を選んだ理由を見て、どのような点に着目して買い物をするよいか考えさせる。 ○ 実際に自分たちは、このような食品購入の仕方をしているのか振り返らせる。 ○ これらのポイントに気をつけて買い物をすることが、自分たちの家庭だけでなく社会全体にも影響を与えることに気付かせる。
7分	4 授業の振り返りをする。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 今回の授業でのポイントを踏まえ、授業での気付き、どのように生活に生かしたいかを書かせる。

Ⅲ 評価

- 食品購入をする際に、どのような点に気をつけるとよいかを理解できたか。〈知識・技能〉
- 場面設定に応じて、どのような食品を選択するとよいか考え、持続可能な消費行動につながるよう工夫することができたか。 〈思考・判断・表現〉
- 食品のよりよい選択について学習したことを生かして、家庭での実践を考えることができたか。 〈主体的に学習に取り組む態度〉

6. おわりに

食品ロスは自分たちの生活と大きな関わりがあるが、その問題の深刻さには日常生活からはなかなか気付くことができない。ニュースなどでは、食品ロス問題を改善するための企業の取り組みが取り上げられることが多くなってきたが、家庭でできる取り組みについて取り上げられることはまだ少なく、自分で情報を入手しなければならない。自分で現状を調べて対策を考え行動に移すというのは、深刻な問題で早急に改善が求められることであっても、なかなかできないことであろう。このままでは、食品ロスは一向に減らない。家庭科教育を通して、全員が自分の生活を振り返り、食品ロス問題のみならず、世界中の様々な問題を自分事として考えられるようになることが必要である。研究を行っていく中で、家庭科教育の役割や必要性について再確認することができた。

家庭における食品ロスの現状と学校現場の現状や家庭科教員の方たちの声などから、どのような対策が求められているのか、子どもたちにどのような力を身に付けさせるとよいのかなどを考えることができた。子どもたちが自分事から地域社会、そして世界で起きている問題に目を向けて考えられるようになることが、持続可能な生活をするために必要となってくるであろう。自分の生活の中にとどまらない問題などを扱う際は、日常生活での一場面を授業で取り上げたり、実際の経験談を話したりするなど、子どもたちが「自分でも考えられそう」「自分でもできそう」と思えるような工夫をすることが大切だと考える。

食品購入における食品ロス削減の方法では、主に直接廃棄に分類されるロスを防ぐことができるが、過剰除去や食べ残しに分類されるロスについても対策を行っていかなければならない。この2つのロスに関しても、少し意識をするだけで改善できる取り組みは多いと考えられる。今後、食品の保存や調理、消費段階における食品ロス削減についても、子どもたちにとって分かりやすく、家庭で継続的に取り組むことができるような方法と授業実践について考えていきたい。

註

- 1) 政府広報オンライン「もったいない！食べられるのに捨てられる『食品ロス』を減らそう」
<https://www.gov-online.go.jp/useful/article/201303/4.html> (2019年12月2日閲覧)
- 2) 農林水産省『食品ロスの削減』
https://www.maff.go.jp/j/shokusan/recycle/svoku_loss/161227_9.html (2019年12月2日閲覧)
- 3) 京都市『みんなで取り組もう！京都市食品ロスゼロプロジェクト』
<http://sukkiri-kyoto.com/data> (2019年12月2日閲覧)
- 4) 浅利美鈴「『ごみ』が教えてくれること」
<https://www.city.kyoto.lg.jp/kankyo/cmsfiles/contents/0000244/244521/06.pdf> pp.2,7-10
- 5) 政府広報オンライン「もったいない！食べられるのに捨てられる『食品ロス』を減らそう」
<https://www.gov-online.go.jp/useful/article/201303/4.html> (2019年12月2日閲覧)
- 6) 『中学校学習指導要領解説技術・家庭編』(2017) pp.6-7

参考文献

消費者庁『平成 28 年度 消費生活に関する意識調査 結果報告書』（2017）

国民生活産業・消費者団体連合会 事務局『食品廃棄削減に向けた消費者意識調査結果報告書』（2013）

野々村真希「家庭の食品ロスを生む消費者の行動」（2018 年）

東京書籍「新編 新しい技術・家庭 家庭分野 自立と共生を目指して」（2015 年検定）

開隆堂「技術・家庭 家庭分野」（2015 年検定）

教育図書「新技術・家庭 家庭分野」（2015 年検定）

政府広報オンライン「もったいない！食べられるのに捨てられる『食品ロス』を減らそう」

<https://www.gov-online.go.jp/useful/article/201303/4.html> （2019 年 12 月 2 日閲覧）

農林水産省『食品ロスの削減』

https://www.maff.go.jp/j/shokusan/recycle/syoku_loss/161227_9.html （2019 年 12 月 2 日閲覧）

浅利美鈴「『ごみ』が教えてくれること」

<https://www.city.kyoto.lg.jp/kankyo/cmsfiles/contents/0000244/244521/06.pdf> （2019 年 12 月 2 日閲覧）